

巻頭言



理事長
峯岸 敬 (群馬大学教授)

第14回日本生殖内分泌学会学術集会は、山形大学の倉智先生に会長をお願いし、東京で開催されました。

核内レセプターの機能に関する世界的な権威であり、生殖内分泌研究分野でも重要な貢献をされている加藤茂明先生が特別講演を担当され、アンドロゲン作用の *in vivo* における雌雄両方の生殖機能に関わる研究成果を解説されました。この分野での研究では遺伝子欠損マウス (KO マウス) を作出し、動物個体内での機能を明らかとすることが必須ですが、男性ホルモンレセプター (AR) 欠損マウスの雄は不妊であるため、通常の ARKO マウスの作出は困難でありましたが、新しい技術を駆使して ARKO マウスの作成に成功した経緯を解説されました。さらに、この KO マウスはヒトにおけるアンドロゲン不応症のモデルマウスであり、多くの臨床に応用できる知見の報告がありました。教育講演は、生水真紀夫先生がアロマトーゼの研究で臨床的に重要な研究内容を解説され、このお2人のご講演から、アンドロゲンとエストロゲン作用メカニズムに関する最新の研究における進歩が示されました。

第15回に関しましては、金沢大学医学部泌尿器科の並木幹夫先生のお世話で千里阪急ホテルと千里ライフサイエンスセンターを会場に開催されます。

招請講演は NIH の Dr. Maria L Dufau が LH による精巣での機能調節について、教育講演は岡部勝先生の受精のメカニズムに関する講演が予定され精巣・精子の機能についての最先端の概説をうかがえると思います。またシンポジウムは卵巣機能調節に関する新しい知見に関する話題であり、招請・教育講演と合わせて雌雄の性腺機能に関する最新の研究成果を理解する場を提供する企画を立てられたと思います。

ぜひ多くの方々に参加していただき、活発な意見交換がされることを祈念しております。